ＩＰＭ実践指標モデル（バラ）

分類		管理項目	管理ポイント	点数	チェック欄		
					昨年度の実施状況	今年度の実施目標	今年度の実施状況
予防	病害虫・雑草の発生しにくい環境の整備	ほ場内、周辺の除草（必）	病害虫の発生源となるほ場内やほ場周辺の雑草を除去する。	1			
		健全苗の定植（必）	定植苗は病害虫の発生加害のない健全な苗を使用する。	1			
		施肥管理	土壌診断または養液診断を行い、適切な施肥を行う。	1			
		施設内の湿度管理	灰色かび病等の発生を予防するため、施設内や株元が過湿にならないように管理する（ヒートポンプ等の活用）。	1			
		落葉の除去	灰色かび病の発生防止のため、落葉を定期的に取り除き、ほ場衛生に努める。	1			
		養液栽培の病害対策	土ぼこりは土壌病害の原因となるため、養液栽培では床面を防草シートで覆うなど、対策を施す。改植時に罹病残渣を除去し、栽培ベッドの資材は更新するか、温湯消毒、薬剤消毒（例ケミクロンＧ等）等で消毒を実施する。	1			
判断	防除要否、タイミングの判断	気象情報の把握	気象情報を把握し、防除の要否を判断する。また、適期防除に心掛ける。	1			
		病害虫の観察	ほ場には必ずルーペを持参し、病害虫や天敵の発生状況を確認し、防除に活かす。	2			
		トラップの設置	黄色または青色粘着トラップ等によりほ場での害虫の発生動態を確認する。	1			
防除	耕種的防除	発病株、発病・発生部位の処理（必）	灰色かび病、うどんこ病が発病した花や葉を見つけ次第、ほ場外に出し、適切に処分する。また、同化専用枝の未収穫花がアザミウマ類の発生源となるので摘み取り、同様に処分する。	1			
	生物的防除	害　　虫	ハダニ類：天敵農薬（ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ）を使用する。	1			
			アザミウマ類：天敵農薬（スワルスキーカブリダニ等）を使用する。	1			
		病　　害	灰色かび病、うどんこ病：生物農薬（バチルス　ズブチリス剤）を使用する。	1			
	物理的防除	防虫ネットの設置（必）	施設開口部は、防虫ネットで被覆し、害虫の飛来や産卵を防ぐ。　注１	2			
		土耕栽培の土壌病害（根腐病、苗立枯病）対策	土耕栽培では太陽熱消毒、熱水土壌消毒、散水蒸気消毒などを行う。	1			
		防蛾灯の設置	施設内に防蛾灯を設置し、ハスモンヨトウ等の侵入を防止する。なお、品種によっては切り花伸長・開花遅延の影響がある場合があるので、注意する。	1			
	化学的防除	農薬の使用全般（共通）（必）	十分な薬効が得られる範囲で最小の使用量となる最適な散布方法を検討した上で使用量・散布方法を決定する（薬剤散布後の残液が出ないように薬液を調整する）。	1			
		くん煙剤の利用	うどんこ病に対して硫黄くん煙を行う。　注２	1			
		ローテーション防除	農薬を使用する場合には、農薬工業会が提供している作用機作による農薬の分類（IRAC、FRAC）を確認し、特定の成分のみを繰り返し使用しない。さらに、当該地域で薬剤抵抗性が確認されている農薬は使用しない。	1			
		薬剤の選択	天敵農薬（カブリダニ類）に影響の少ない薬剤を選択する。	1			
		散布後の処理	散布器具、タンク等の洗浄を十分に行い、残液やタンクの洗浄水は適切に処理し河川などに流入しないようにする。	1			
その他		作業日誌（必）	各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等のＩＰＭに係わる栽培管理状況を作業日誌として別途記録する。	1			
		研修会等への参加	県や農業協同組合が開催するＩＰＭ研修会や防除研修会等に参加する。また、研修会等の内容は、家族や作業者等へ周知し、情報共有する。	1			
				合計点数			
				評価結果			

＊（必）と記述している管理項目については、必ず管理項目として設定しチェックする。

注１　コナジラミ類、ハモグリバエ類、アザミウマ類には１㎜以下の目合い、ハスモンヨトウ、オオタバコガには５㎜以下の目合いの防虫ネットが有効である。
　　光反射ネットも侵入防止効果がある。施設側面だけでなく、天窓にもネット等を展張すると侵入防止効果が高まると考えるが、高温多湿にならないように栽培管理に注意する。

注２　天敵カブリダニ類を使用している場合は、１日３時間以内の使用とする。また、ヒートポンプ等を使用している温室では実施しない。